

第2回鎌倉版「スマートシティ」市民対話（2021.10.10 14:00~16:30）

プレゼンテーション・問いに対する主なキーワード

※カッコ内の数字は関連チャットコメント数

※チャットのコメントは、原文の趣旨を損なわない範囲で一部修正

【問い】

スマートシティの具体的なプロジェクトの共創に市民が参加するためには、どのような仕組み・仕掛け・場(プラットフォーム)が必要だろうか？

<グループ1>

- ・ SNS やオンライン会議などのデジタルと、リアル（対面）のハイブリッドが大事。例えばデジタル回覧板による情報提供のリーチ数などの効率性と、本音が出る対面での対話も両立できるのではないか。
- ・ 鎌倉市も地域ごとに課題が異なるため、地域ごとの観点も大事。地域ごとに集まってデジタルデバインド（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差。以下、同じ。）を解消していくことが必要。このような場に参加できない人の声を聞くことも重要。
- ・ 情報が楽しく入ってくるような状況を作れるとよい。例えばお地蔵さんに QR コードがあって情報収集できたり、雑談の中からアイデアが出てくる仕組みがあるとよい。

<グループ2>

- ・ 気づきや思いからはじまることもあるので、これらを市民の声として吸い上げる仕掛けが大事。
- ・ 市民はアイデアを言いたい。困りごとがテーマごとに見える化されているとさらにアイデアが出やすくなる。

<グループ3>

- ・ 災害時に使用するプラットフォームも増えてきているし、オンライン会議も増えている。オンラインとリアルのハイブリッド型を、市が中心となって開催することで参加しやすくなる。
- ・ インスタグラム、ラジオ、テレビなど、複数のツールを利用することが大事ではないか。

<グループ4>

- ・ 情報提供も SNS に偏りすぎると参加できない人がある。そのため、多くの人が参画できるアイデアソンのような場も考えていく必要があるのではないか。アイデアソンはリアルの方が意見が出やすいだろう。

<グループ5>

- ・ 個人スキルを可視化し、必要な人同士でマッチングができるような仕組みがあるとよい。
- ・ スマートスピーカーと市民参加型ラジオを組み合わせると、高齢者の人も参加しやすくなる。
- ・ 計画ありきで進めるのではなく、プロトタイピング思考で試行錯誤を素早く繰り返せるとよい。

<グループ6>

- ・ 情報が集まり、マッチングもできるような場が必要。
- ・ オンラインは参加しやすく話しやすいが、ずっとオンラインだと寂しい。リアル（対面）も組み合わせていく方がよい。
- ・ 誰かを連れていきたくするようなイベント設計が必要。「みんな仲間！」という意識が大事。

【まとめ】

SNS やオンライン会議といったオンラインとリアル（対面）のハイブリッドな場

- ・ SNS やオンライン会議といったデジタルと、リアル（対面）のハイブリッドが大事。例えばデジタル回覧板による情報提供のリーチ数などの効率性と、本音が出る対面での対話も両立できるのではないか。
- ・ 情報提供も SNS に偏りすぎると参加できない人がある。そのため、多くの人が参画できるアイデアソンのような場も考えていく必要があるのではないか。アイデアソンはリアルの方が意見が出やすいだろう。
- ・ オンラインは参加しやすく話しやすいが、ずっとオンラインだと寂しい。リアル（対面）も組み合わせていく方がよい。
- ・ 災害時に使用するプラットフォームも増えてきているし、オンライン会議も増えている。オンラインとリアルハイブリッド型を、市が中心となって開催することで参加しやすくなる。

情報を楽しくインプットできる／される仕組み

- ・ 情報が楽しく入ってくるような状況を作れるとよい。例えばお地蔵さんに QR コードがあって情報収集できたり、雑談の中からアイデアが出てくる仕組みがあるとよい。

- ・ 気づきや思いからはじまることもあるので、これらを市民の声として吸い上げる仕掛けが大事。
- ・ 誰かを連れていきたくなるようなイベント設計が必要。「みんな仲間！」という意識が大事。

地域ごとの困りごとをテーマに分類して見える化

- ・ 鎌倉市も地域ごとに課題が異なるため、地域ごとの観点も大事。地域ごとに集まってデジタル格差を解消していくことが必要。このような場に参加できない人の声を聞くことも重要。
- ・ 市民はアイデアを言いたい。困りごとがテーマごとに見える化されているとさらにアイデアが出やすくなる。

個人スキル等の情報可視化と必要な人同士をマッチングできる場

- ・ 個人スキルを可視化し、必要な人同士でマッチングができるような仕組みがあるとよい。
- ・ 情報が集まり、マッチングもできるような場が必要。

デジタルデバイドをなくすための複数の情報ツールの組み合わせ

- ・ インスタグラム、ラジオ、テレビなど、複数のツールを利用することが大事ではないか。
- ・ スマートスピーカーと市民参加型ラジオを組み合わせると、高齢者の人も参加しやすくなる。

試行錯誤を素早く繰り返すプロセス

- ・ 計画ありきで進めるのではなく、プロトタイピング思考で試行錯誤を素早く繰り返せるとよい。